

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491000327	事業の開始年月日	平成23年4月1日
		指定年月日	平成29年4月1日
法人名	(有)三上		
事業所名	グループホームみかみ		
所在地	(245-0067) 横浜市戸塚区深谷町1234-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和4年2月20日	評価結果 市町村受理日	令和4年5月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者に対しては一人ひとりの性格や生活状況を把握しその人らしい生活を送れるよう、その人らしい笑顔になってもらえる様に支援しています。また家族支援も大事に思っています。グループホームで生活すると決めた時からご家族の不安や心配は始まります。ご家族の話を良く聞き、コミュニケーションを大切に、安心して見守って頂けるよう努力しています。またご利用者の体調管理に気を配り早期発見に努めています。入院してADLが下がってしまってもスタッフ一丸となりまたホームで暮らしていけるよう支援し続けます。実際医師から、もうホームには戻れないと言われたご利用者もご本人とご家族とスタッフの力で復帰できた事例もあります。諦めない気持ちがスタッフにはあります。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年3月25日	評価機関 評価決定日	令和4年5月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR「戸塚」駅から神奈中バスで約20分乗車「横浜薬科大学南門」で下車、2分ほどの所にあります。鉄筋3階建てで1階が同施設で上の階は同所の小規模多機能型居宅介護施設を併設しています。近くには大規模団地である横浜ドリームハイツ、相州春日神社や公園など住環境に恵まれています。

<優れている点>

今年1月から対面式を再開した運営推進会議では地域代表として民生委員や地域ケアプラザ職員、家族と数多くの参加者のもと、事業所の目標を掲げて活動している状況や感染予防対策、ヒヤリハットの報告などの質疑が交わされ、地域における介護情報交換の場となっています。利用者の思いは生活歴から深くその人を理解していく過程を家族と共に大切にしながら職員間で共有する事に努めています。事業所の理念を具体的な行動目標に改めて作成し、日々確認と運営推進会議で討議を重ねています。

<工夫点>

「諦めない」をモットーにしっかりと家族との関係性構築を図っています。毎月の便りには変化を読み取るグラフ化した「バイタルチェック表」や居室担当が個別のお便り欄で利用者の生活状況を伝えています。短期就労や調理、入浴の専門職員を雇用して介護支援の在り方の多様化に取り組んでいます。コロナ禍でも早くからオンライン面会や事務室での面会の機会を積極的に実現しています。朝食の煮込みうどんづくりで役割分担しながら朝のスタートとしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みかみ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	何か問題が起こった場合は理念を振り返り、皆で相談しながら答えを出し、より良い支援が出来るようにしています。就業規則の1ページに載せ、理解してもらえよう説明し、共有しています。	人が支えあう、共に生きる持続可能な社会の実現を「わたくしたちの3つの約束」と事業所理念に定め、毎日の支援の進め方の指針として職員で共有して実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	例年は、町内会の祭や防災訓練への参加、中学生の職業体験や委員会活動での交流、踊りやウクレレなどのボランティアの受入れ、近所の人を招いたクリスマス会などで地域の人々と交流しています。新型コロナ感染防止のため、現在はこれらを中止しています。	事業所の地域活動では、各種の困難なことも含めた相談に対応し交流を繋げることで、地域に根ざした事業所と認知されています。運営推進会議の中でも情報の発信を行い介助時必要な古布の支援を受けています。地域で緊急の介護対応が必要な時の相談・支援も行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域に根ざしているのを感じるのは相談件数が増えている事です。個人からの連絡も多く、直接契約に結び付かなくとも、地域の方々の相談相手として関わっています。代表者は地域の集まりにアドバイザーや講師として招かれています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため、非対面での会議ではありますが実施しました。書面にて頂いた意見にはできる限り応えるように心がけています。R4.1には2年ぶりに対面で行うことが出来ました。	令和4年1月から対面式の運営推進会議を再開し、多くの地域住民代表や地域ケアプラザ所員、家族の参加で報告や討議が活発に行われています。近くのドリームハイツの民生委員を中心とするサポート体制が充実しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区の高齢・障害支援課に推進会議の報告書や外部評価結果を郵送しています。地域包括支援センター主催の勉強会への参加や入居相談、行政が開催する認知症などの研修に参加しています。生活保護費を受給している人がおり、担当課職員と協力関係を築いています。	運営推進会議に参加の戸塚区高齢・障害支援課職員を中心に情報入手や相談を行っています。戸塚区が抱える困難な課題に「困った人こそ支援を」をモットーにできる限り積極的に協力して、頼りになる施設として役割が築ける様に協力関係をつくっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	コロナ禍の状況で全体ミーティングの開催が困難なため、身体拘束についての資料配布や身体拘束・虐待チェックシートの配布を行い、職員全員に報告書を提出してもらい、身体拘束廃止について考える機会を設けました。玄関の施錠については、ご利用者の不穏状態が強い時には一時的に施錠することもあります。	毎日の介助にリーダーを決め、話し合いをしていく環境を整えています。定期的にチェックシートを活用して自己研鑽と気づきの機会を作っています。安全上、足元センサーマットが必要な時は家族了解のもとで設置し、職員は夜間は場所を移動し、利用者の近くで見守りをしています。玄関等の施錠は昼間はしていません。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	本年度においては、ミーティングの開催が困難なため、虐待についてのチェックシートを配布し回収後、集計結果を報告しました。職員は、言葉使い一つ一つに注意する事を意識しています。	介助リーダー制と定期のチェックシートによる自己研鑽、報告書により更なる気づきの機会としています。言葉使いにも気を付けながら明るい雰囲気になるよう心掛けています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者は成年後見制度について理解しており、必要と考えられる利用者や家族に勧めています。またご家族の要望などにも話し合いを持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約又は改定などの際についての内容説明は、十分ご理解いただけるよう、ご利用者ご家族に説明させていただいています。管理者・ケアマネに気軽に話し合いを持てるような体制にしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	「め～えめ～え通信」を毎月発行し事業所の様子を家族に伝えています。職員がご利用者とのコミュニケーションを大切にしており、要望などがあればすぐに管理者、ケアマネに相談できる体制にしています。要望があれば真摯に受け止め運営に反映させます。	運営推進会議の参加を呼び掛けるだけでなく、家族との「諦めない」関係性に努めています。利用者ごとの「め-えめ-え通信」による報告や、事あるごとに連絡をこまめに取っています。家族との意見交換により、日々の利用者の生活の思いや希望に繋げる一助となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	必要に応じて職員の相談に応じています。働きやすいように半日勤務を可能にし、就労環境を整えています。	毎日の支援状況をこまめに記入した「申し送りノート」を活用して職員・管理者・看護師の意見や要望を拾い出しています。業務連絡や健康情報などにも職員に回覧することで周知徹底を図っています。	多様な勤務形態をもって事業を進めるためには定期的な意見交換・交流の場を再開されることが期待されます。
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の職員の実績を把握し、給料に反映しています。また各々スキルアップのためのインフォメーションを流し、向上心を持てるような環境を整えています。更に役割を分担することで職員一人ひとりがやりがいの持てる職場環境を目指しています。	短時間勤務・入浴担当・調理担当など、必要と希望に応じた各種の勤務形態を取り入れ、介護の専門性を高める取り組みと働きやすさの実現を目指しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	実習型雇用・中高年トライアル雇用を採用し、実習計画に沿って指導にあたり、ケアの向上を図っています。新人スタッフには熟練スタッフが指導に当たり、個々に合った研修を進める等スキルアップに繋げています。	社内外の各種教育への呼びかけを情報として提供し、個別に社外の福祉機関の研修を定期的に取り組みよう進めています。介護福祉士などの資格取得と給与見直し時を個人面接の機会としています。	多種多様な働き方の職場づくりを進めている中で、継続的な視点での個々の職員の育成をより明示し促進する機会が期待されます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設で行われる講習会への参加を職員に促しています。グループホーム連絡会に加入し、情報収集や意見交換をしています。本年度については外部との関わりを自粛しました。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	何をして欲しいか、何が言いたいかをしっかり傾聴することでコミュニケーションをとり安心できる環境作りに取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族がどのような問題点を抱えているのかを十分な話し合いの中で捉え、問題解決のためにどのようなサービスが出来るかを一緒に考え信頼関係を築いています。面会時に話しやすい環境を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	コロナ禍の為、新規入居については出来る限り保留していましたが、緊急性のある依頼を受けた場合には、通常の施設訪問等は控え、転入前の相談員等よりできる限り情報を頂き必要なサービスを検討する事ができました。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	それぞれの出来ることを見つけ、ご利用者の出来ることは積極的にさせていただきます。施設ではなく「家」という認識を持ち穏やかな生活が送れるように努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族にはコロナ禍に関する説明後、消毒、バイタルチェックを行ったうえで短時間での面会をしていただきましたが、引き続きご利用者とご家族が関わりずらい年でした。通常であれば、施設でイベントを行う際にはお客様として参加されるのではなく職員と一緒にご利用者に喜んでいただけるようお手伝い・協力をして頂いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍のため、外出は極力控えていますが、消毒、換気等を行い面会する機会を設けています。	希望により墓参り、説法聴聞の希望などを実現しています。外出時には寿司屋の外食や近くのバラ園、春日神社や桜並木を見に行く機会をつくっています。定期的になじみの場所への外出も計画しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションの中で出身地の話を持ち出し、ご利用者同士が同郷の話が出来るように会話の橋渡しをしたり、ご利用者同士で会話ができるように認知症の状態に合わせて座席を考えています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	以前入居されていた方の息子さんの看取りについてご家族より相談を受けました。病院から転院を勧められ、どうしても当施設で看取りをして欲しいと希望があったため、ご家族や病院と受入れに向けて話を進めていきましたが、お亡くなりになり入居に至りませんでした。ご家族は相談する場所があったことに安心されていたようです。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常にご利用者とコミュニケーションをとり、希望・意向に添えるよう努力しています。ご本人の希望を聞き取ることが困難になってきたのでご家族からの情報収集にも努めています。	長い人生における生活歴を熟知した上で希望や意向の実現に添えられるよう努力しています。把握が難しい時は家族などからの情報収集にも「諦めない」姿勢で取り組んでいます。本人と家族が心から安心して過ごせる施設となるよう心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	他業者から引き継ぐ場合も、これまでのサービス利用の経過を把握し、ご利用者の生活歴も含め理解を深めています、ご本人の気持ちを重視し、出来る限り生活環境が大きく変わらないよう配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出勤日数の少ないパートさんや夜勤者より情報の共有が出来ないと指摘を受け、改善策を話し合い週間カレンダーをフロアに設置し、ご利用者の現状が一目でわかるようにしました。処置の変更等が分かりやすくなり業務の効率が良くなったと意見が出ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は長期1年、短期半年の目標を設定し作成しています。目標更新時にモニタリングを行い「できることは自分でしたい」などの本人の意見や、家族、医師などの意見も計画に反映しています。状況が変化した場合は、期間に関わらず見直ししています。	長期目標1年、短期目標6ヶ月を設定し介護計画を作成しています。6ヶ月に1度モニタリングを行い、利用者の状況について意見交換して、状況に変化があればその都度計画を見直しています。家族の意向や医師などの意見も反映し、介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	連絡ノートを活用し、情報共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスに捉われないことなくご利用者やご家族の要望に出来る限り応えられるよう努力しています。また、要望を待つばかりではなく、必要と思われることがあればこちらからも提案させていただきます。常に思いやりの支援を心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍の影響により地域との関わりを自粛しています。通常ではサークルの方が来訪してくださったり、中学生の職業体験の受入れや、月1回福祉委員会の生徒さんが来訪してくれることをご利用者が地域とのつながりを継続できるように支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の集団受診の他に、週1回の訪問看護、24時間対応看護で、しっかりと連携がとれています。ご利用者、ご家族が共に安心できる体制になっています。ご家族の希望があれば、医師より直接説明していただく事もあります。	入居者全員が事業所の協力医療機関の内科医の往診を月2回受けています。往診医以外への通院は家族や職員が付き添い対応します。歯科医は必要時に来訪し、看護師は毎週訪問して健康管理をしています。医療の情報は「申し送りノート」で共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は日常の変化や気づきを看護職員に伝え、随時適切な指示・判断を仰ぎ、ご利用者の身体安全を第一に努めています。ちょっとした疑問も気軽に相談できる関係にあります。常に連携が取れる状況にあり、安心できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際、安心して治療できるように詳細な介護サマリーを病院に提供しています。地域連携室を通してご利用者の入院中の様子を病院側からも入院状況及び退院に関して事前に子細な情報提供があり、現在の連携は良好と考えています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	今年度においてはご家族の希望により末期がんの方の入居がありました。残念ながら短いご縁でしたが、「本人が苦しくないように」を念頭にご家族と連絡を密に取りながら支援させていただきました。	入居時に「重度化対応・終末期対応指針」で説明をしています。終末期と医師が判断した場合には「終末ケアの取り組みについて」で再度確認し方針を共有しています。看取りケアを行うにあたっては職員間の意識の共有を図り今年度は数名を看取っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の連絡の仕方を分かりやすく作り直し、見やすい場所に掲示してあります。具体的な応急処置は看護師の支持を仰いでいます。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	コロナ禍につき、書面にて避難経路や備蓄の内容を共有できるようにしています。	消防署に指導及び協力の依頼をしていましたがコロナ禍で机上での訓練に変更し実施しています。避難経路や備蓄品を確認し共有しています。3日分を目安に水、米、缶詰、味噌などの調味料、ソフト食、液体タイプの経腸栄養剤などを準備して災害に備えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーの確保はケアするにあたっては必須の事と認識しており、利用者の尊厳を大切にしています。新人研修時には言葉遣いや声掛け、排泄、入浴時など自尊心を傷つけない対応をすることを強く伝えています。	プライバシーに留意して、排泄介助の際は扉やカーテンを閉めています。配慮が必要な業務連絡や記録表示は部屋番号を用いています。認知症の内部研修で人格の尊重などを学び自尊心を傷つけない対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員とのコミュニケーションがとても上手くとれており、気軽に希望などを話してくださいます。すぐに対応が出来ることは実現しています。意志表示が困難なご利用者に対しては「本人ならどのようにしたいのか」と本人主体になるように日頃の利用者とのかかわりの中でヒントを得るよう心掛けて対応しています。自分の好きな食べ物が食べたいというご利用者に対しても一緒に買い物に出かけ、個別対応を受け入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	外出が困難だったため、ご希望があればエントランスでの日向ぼっこや近隣のお散歩に出かけていただきました。密を避けるため、席の配置を対面にならないよう工夫しました。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご家族の支援により、みなさん身ぎれいにされています。又、事情によりご家族からの支援を受けることが出来ないご利用者にはスタッフや知人からの寄付により、その人らしい装いが出来るようにしています。通常は訪問理容を利用していますが、希望者には近隣の美容院へお連れしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	外部委託食材を使用。形態、味付け、ご飯の硬さなど出来る限り個人の趣向に合うようにしています。ご利用者には包丁やピーラーを使い野菜を切ってもらっています。また、お誕生日にはご家族がケーキを持ってきてくださったり、職員の手作りケーキを食べる楽しみもあります。	朝食は入居者と一緒に野菜切りなどをしてうどんなどを提供し、パン食の希望にも応じています。昼と夕食は配食業者の食品を温めています。入居者は食器拭きや下膳をして食事に関わります。敬老会、誕生日の行事やコロナ禍で外食を控える代わりに皆が好む寿司の持ち帰りをするなど、食事を楽しむ工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分チェック表にて一日の水分量を把握するようにしています。水分を摂りたがらない方には、ちょこちょこ飲みをしていただき、1日の必要量に届くように努力をしています。また必要があれば水分にトロミをつけます。食事に関しては個人の状態に合わせた形態にし、ソフト食にも対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事後に声掛けをしています。また、介助が必要な方には看護師の指導の下、職員が介入し口腔ケアに力を入れています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック24時間表を作り、一人ひとりの排泄パターンを把握しています。なるべくトイレでの排泄をするよう、職員一同声掛け誘導をしています。排泄の失敗には自尊心を傷つけないように速やかに浴室へ誘導するなど対応するようにしています。	「排泄チェック24時間表」で排泄パターンを把握し、声かけなどでトイレ排泄を促しています。夜間は不安解消や安眠を優先しています。吸収力のあるパッドへの変更や、リハビリパンツからおむつへの変更により、不穏になる人の安心感にも繋げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	全体的な活動の低下により便秘されるご利用者が増えています。まずは牛乳等飲食物で便秘解消を試みますが、解消されない場合は医療へ相談しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は週2回です。入浴専門の職員がおり、不安をなくしたり楽しく入浴が出来るよう支援しています。入浴を拒む方には、時間や日を変えたりして促し、無理強いはしていません。季節のゆず湯や入浴剤を楽しむ事もあります。リフト浴の設備があります。空調設備でヒートショックの予防対策をしています。	電動リフト浴の設備があり、概ね週2回、入浴介助専門の職員が入浴の支援をしています。希望があれば同性介助に応じます。「風呂が好きなのでゆっくり入りたい」という人への配慮や、菖蒲湯・入浴剤などで季節や香りを楽しみながら入浴できるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの習慣、その日の体調に合わせて、ゆっくり過ごせるようにしています。部屋の温度・調光に配慮し、快眠につなげています。眠りたい時間まで話をしたり、テレビを観たりと集団行動に捕らわれず、一人ひとりのペースを大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご利用者の服薬管理は薬局さんをお願いしています。薬情報はファイル保管の他に職員が見やすいように個人ファイルの見開きに貼り、目的や副作用をいつでも確認することができます。また、状態観察をしっかりと行うことで、症状の変化に気を配っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	孤立しがちなご利用者が他利用者との輪の中に入りやすいように個々のご利用者「出来る事・興味のある事」を職員が見出す努力を常に行っています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来る限り希望に応える支援を心がけていますが、本年度は外出を自粛し、エントランスで日光浴や外気浴を楽しむようにしています。個別対応により、希望のあったご利用者をお墓参りにお連れしました。	コロナ禍で外出は主に近隣への散歩と買物に留まっていますが、エントランスでも日光浴をして寛ぎ、気分転換しています。感染状況を確認して墓参や説法を聞きにお寺に行く等の個別支援もしています。本人が金銭管理をしている人には買い物への付き添いも行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している。	買い物支援をしています。一緒に買い物に行き、金銭の管理もご本人がしています。金銭管理をしていない人も、買い物はとても気分転換になるので利用者の楽しみです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に電話をかけて頂いています。連絡を取っていなかった遠く離れたご家族にスタッフが手紙を代筆し交流を続けられている方もいます。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂兼リビングは、掃除や換気、室温調整がされ、明るい共有空間となっており、椅子やテーブル、ソファ、テレビがゆったりと配置されています。ご利用者の季節ごとの作品を飾り、季節感があります。リビングではテレビを観たり、湯茶を飲んだり、職員とトランプに興ずるなど、穏やかな時間が流れています。	コロナ禍で換気には特に配慮し、空調機器や加湿器で温湿度管理をしています。近隣の人の往来を垣間見ることができる全面ガラス張り掃き出し窓のエントランスに、季節の花を植えたプランターを置いています。入居者が作った四季の花などの工作を壁に飾り季節を感じられるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日当たりの良いエントランスには花を飾ったり、ご利用者の作品を飾ったりして居心地の良い空間を作っています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人、ご家族の意向をたいせつにしています。思い出の写真や愛着のある物を居室に置くことで居心地の良い空間を作る事に配慮しています。また、居室担当を決め、責任をもって整理整頓するように心がけています。	事業所がエアコン、扇風機、照明を備えています。居室にタンス、テレビ、時計、カレンダー、本、手作りの人形などの馴染みの品々を持ち込んでいます。居室担当職員が中心となって整理整頓、衣類の入れ替え、備品の補充などの支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	今出来る事を続けられるように手すりの取り付けや風呂場で滑らないような工夫をし、安心して過ごせるよう心掛けています。		

2021年度

事業所名 グループホーム みかみ
 作成日： 令和4年 5月 12日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8	コロナ禍で対面での全体ミーティングができないため、申し送りノートを活用し職員間の周知徹底を図っている。外国人雇用を行っている為、文章での伝達が難しい。申し送りノートを継続しながらも対面でのミーティングを再開させたい。	感染対策をしっかりと行い、定期的な意見交換、交流の場を再開したい。	会議室の換気、机の消毒、適度なソーシャルディスタンスを確保し、対面でのミーティングを再開させる。	2ヶ月
2	10	外国人や無資格未経験者の雇用を行っているので、職員の育成を目的とした研修を充実させ、平等で働きやすい職場環境を作りたい。	経験、スキルに関係なく内外研修に参加することができる。	当社で介護職員養成研修（介護職員初任者研修）の受講ができるように開設の準備している	8ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月